

- \* 5千人の給食の奇跡のあと、イエスは山に行き、祈りの時を持たれた。一方、弟子たちは湖畔に降りて行って船に乗り込み、イエスと待ち合わせしている所へ向かって漕ぎだした。ガリラヤ湖は強風で荒れ始めたその時、「彼らは、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、恐れた。」(ヨハネ6 : 19)「幽霊だ」と思っておびえたのである。しかし、イエスは彼らに言われた。「わたした。恐れることはない。」それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。舟はほどなく目的地に着いた。(6 : 20 ~ 21) マタイの福音書では、ペテロの取った行動が描かれていて、イエスとペテロが船に乗ると風がやんだ、とある。イエスは湖上を歩き、嵐をしずめるというわざを行い、神の御子であることのしるしを示されたのである。
- \* 聖書の奇跡をどのように考え、読むか。三浦綾子氏は、このように言う。「記者は真実を書いた、なぜなら神を信じる者が嘘をつけるはずがない。嘘をつけばかえって宣教の妨げになる。当時、多くの人が事実を知っていたからである。神の無限の力を、人間の有限な、貧弱な知恵を持って、軽々しく判断しないことが、真理を求めるのに、非常に大切である。」(「新約聖書入門」より) また、内村鑑三氏は次のように言う。「この話を信じることを人に強いることはできない。しかし、信者の生涯の日常の生活に当てはめてみると、この記事のうちには大きな真理がある。信者の毎日に、このようなことがあって欲しい、また、なくてはならぬことである。彼は、物理学の比重問題を持ち出して、この記事の真偽を問おうとはしない。」(新約聖書注解「マタイ伝」より)
- \* この出来事は、船に乗っていた12弟子たちだけが体験した。この後の福音宣教において、イエスはいつも彼らとともにいて力をくださるので、どんなに困難なことに出会っても、恐れることなく、イエスに信頼して歩むべきことを教えられた。
- 「この苦しみのときに、彼らが【主】に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から連れ出された。主があらしを静めると、波はないだ。波がないだので彼らは喜んだ。そして主は、彼らをその望む港に導かれた。」(詩篇107 : 28 ~ 30) 私たちの人生は船で海を渡って向こう岸へ行くことに譬えられる。大波小波が常に私たちを悩ます。しかし、そんなとき、主に向かって叫ぶこと、主に助けを求めることである。偶像の神々は何の答えもくれない。唯一真の神、聖書の神、イエス・キリストにより頼めば、私たちを静かな港に必ず導いてくださる。